

国営木曾三川公園基本計画

- 概要版 -

平成20年12月

国土交通省中部地方整備局

国営木曾三川公園基本計画の改定にあたって

< 基本計画改定の背景 >

(1) 社会情勢の変化

環境基本法の制定（平成5年）、河川法の改正（平成9年）など、環境保全への人々の関心の高まりとともに法整備が進められてきました。木曾三川では、本公園の基本計画の改定に先立つ平成20年3月には木曾川水系河川整備計画が策定されたところです。

平成20年に閣議決定された国土形成計画で「エコロジカル・ネットワーク」が位置づけられ、中部圏における木曾三川の果たすべき役割は益々重要になっています。

また、NPO法の制定（平成10年）など市民参加の進展、景観法の制定（平成16年）や歴史まちづくり法の制定（平成20年）など景観や歴史的文化的資産の保全・活用への関心が高まっています。

このような社会情勢の変化に伴い、人々が国営木曾三川公園に求めるものも変化し、レクリエーションの多様化、高度化が進んでいます。また、少子高齢化に伴い、健康づくりの場としての役割が重要になってきています。

(2) 自然環境の変化

木曾三川は全般的には良好な自然環境を保持していますが、ワンド等の水際湿地、砂礫河原、ヨシ原、干潟の減少、外来生物の侵入などがみられます。

また、河川法の改正や木曾川水系河川整備計画の策定により、従来、公園基本計画に定めていたゾーニングの考え方が大きく変化しています。

本公園はこれまで堤内地を中心とした拠点型の整備を進めてきたため、公園と河川とのつながりが十分に活かされず「木曾三川らしさ」や「河川公園らしさ」が感じられない、一体感のある公園として認識されにくいなどの課題があります。

(3) 複数あった基本計画の一本化

本公園の基本計画は中央水郷地区、三派川地区、河口地区と順に基本計画が策定されてきたため、地区によって基本計画に定められた項目にばらつきがありました。また、河口地区については、時間の経過に伴い、社会情勢や計画地周辺の土地利用の変化が進んでおり、計画の抜本的な見直しが必要となっています。

< 本計画の位置づけ >

本計画は、国営木曾三川公園の整備運営の今後概ね10年間の基本的な方向性を示したものです。対象地域は現在、三派川地区及び中央水郷地区として都市計画決定されている区域と、河口地区が予定されている木曾川・長良川・揖斐川の国道1号より下流とします。

ただし、今後の社会状況や周辺の土地利用状況等の変化を踏まえ、必要に応じて見直すこととします。

．基本理念

国営木曽三川公園は、川や流域のもつ魅力である自然環境や歴史文化そして広域的な広がり・つながりをいかしながら、これらを守り・感じ・楽しみ・学ぶ場です。

このため、本計画は国営木曽三川公園の果たすべき役割を明らかにする「国営木曽三川公園が目指すもの」と整備運営の手法である「取組みを進めるために」の2つを基本理念とします。

【国営木曽三川公園が目指すもの】

自然環境への理解

河川管理者等との連携により河川特有の自然環境や生物多様性の保全・再生に努めます。
人々が木曽三川の豊かな自然や長大な河川空間を体験し、川や環境について学ぶための取組みを進めます。
木曽三川の自然をいかした遊びやスポーツなど、国営木曽三川公園ならではの屋外活動の場を提供します。

歴史文化への理解

木曽三川にまつわる歴史文化やその周辺環境について河川管理者や沿川自治体と連携して保全・活用します。
木曽三川の歴史文化や川と人との関わりの大切さを学ぶための取組みを進めます。

広域への貢献

木曽三川全体の自然環境の連続性を確保するとともに、長大な河川空間を楽しめるよう、木曽三川全体をつなぐ利用空間の形成を図ります。また、周辺地域の自然環境や歴史文化資源との接続・連携を図り、観光周遊のネットワークや中部圏の骨格的な水と緑のネットワークの形成に寄与します。
わが国を代表する広大な河川空間や豊かな流域の歴史文化など木曽三川ならではの資源を活用して人々の広域的な交流を促進し、にぎわいを創出するとともに、内外に情報発信していきます。
地域の防災への協力や広域的な防災に資する対応を進めます。

【取組みを進めるために】

A．より多くの人々が、より楽しむ（レクリエーションの視点）

より多くの人々が集う場となるよう利用者サービスやレクリエーション内容の向上、充実を図ります。
広域交流や楽しみながら木曽三川の豊かな自然や歴史文化に触れるきっかけを提供します。
誰もが安心して楽しめるよう、利用者の安全確保とユニバーサルデザインに努めます。

B．より深め、より広げる（参加と連携の視点）

木曽三川の自然環境、歴史文化に対する理解を深めるためプログラムの開発提供、指導者の育成などを図ります。
市民、NPO、企業、自治体など多様な主体の参加と協働を促進します。
沿川地域のまちづくりなどと連携した取組みを進めます。
公園の整備運営のモデルとなる取組みを進めます。

公園全体の整備運営方針

1. 自然環境への理解

保全等の基本方針

木曽川水系河川整備計画（平成20年3月）等、既定計画との整合を図りつつ、砂礫河原、ワンド、ヨシ原、干潟、河岸砂丘など河川特有の自然環境の保全・再生に努めるとともに、外来生物の拡大防止に留意し、豊かで多様性に富み、潤いと安らぎのある木曽三川らしい河川環境を河川管理者と連携して目指します。

自然環境をいかした取り組みの基本方針

川に親しみ、川への理解を深めることのできる場を提供します。なお、利用や管理運営のための施設の整備に際しては、現況の地形や植生をできる限り保全し、川本来の自然環境や水辺景観を損なわないよう配置や形状に配慮します。

<より多くの人が、より楽しむ>

自然環境に関する解説・展示

変化に富んだ自然とそこに生息・生育する多様な動植物など木曽三川の自然環境をわかりやすく解説・展示します。

木曽三川の自然を直接体験

木曽三川の水辺に近づき、豊かな自然や雄大な景観を体験できる場を提供します。

自然を活かした遊歩道、サイクリングロード

河川管理者や地元自治体との連携のもと、木曽三川の長大な河川空間を体感できる場として、遊歩道やサイクリングロード等の整備に努めます。

木曽三川の自然を活かしたスポーツや遊び

木曽三川の水辺や豊かな自然、広大な空間の中で、スポーツに汗を流し、伸び伸びと遊び、憩うことのできる場を提供します。

<より深め、より広げる>

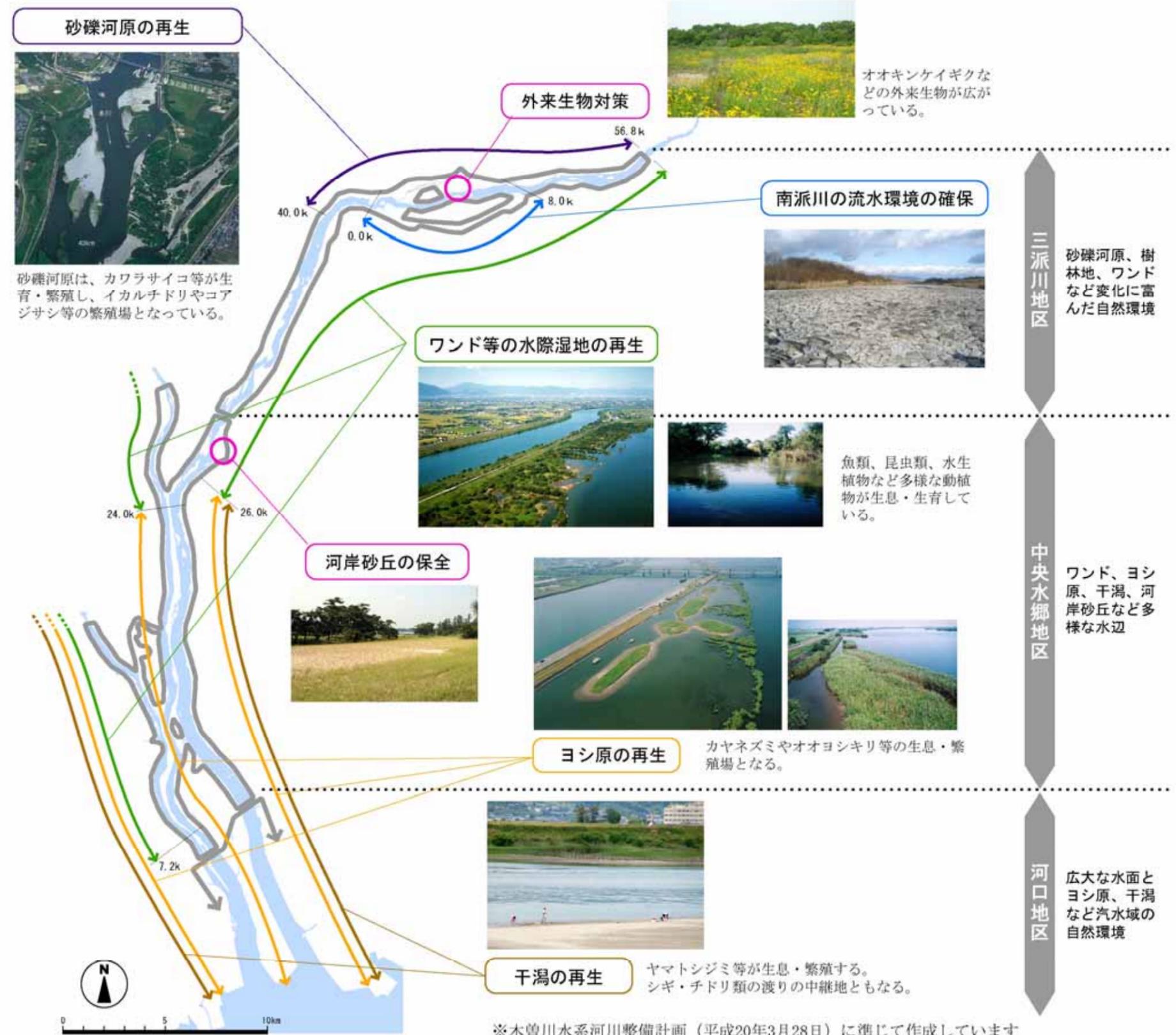
環境学習プログラムの開発や指導者養成

子どもたちや自然環境を学ぶ人々のために、木曽三川の特性を活かした環境学習プログラムの提供と開発に取り組むとともに、指導者の育成に努めます。

多様な主体との連携

環境教育の推進にあたっては、専門家や研究機関、公園内外で活動するNPOや市民団体、企業、地元自治体等との連携を図ります。周辺の森、農地、川などの自然環境との一体的、連続的な取り組み

地元自治体等との連携により、公園に隣接する森や農地、支川などとの自然環境の連続性を確保するよう努めます。



2. 歴史文化への理解

保全等の基本方針

河川管理者や地元自治体等と連携し、木曾三川にまつわる歴史文化資源を保全するとともに、周辺の環境整備を図ります。

歴史文化をいかした取り組みの基本方針

<より多くの人々が、より楽しむ>

歴史文化に関する解説・展示

宝暦治水、明治改修などの治水事業の歴史、輪中に代表されるような水害に対応して発達した水郷の生活文化、水運による繁栄など木曾三川に関わる歴史文化を史資料に基づいてわかりやすく解説・展示します。

歴史文化の体験

歴史文化資源の見学や輪中の暮らしの体験など、木曾三川の歴史文化を体験してもらうための取り組みを進めます。

歴史文化資源を巡る遊歩道、サイクリングロード

河川管理者や地元自治体との連携のもと、沿川や周辺地域に点在する歴史文化資源を巡る遊歩道、サイクリングロード等の整備に努めます。

<より深め、より広げる>

歴史文化の学習プログラムの開発や指導者養成

子どもたちや歴史文化を学ぶ人々のために、木曾三川の歴史文化に関する学習プログラムの提供と開発に取り組むとともに、指導者の育成に努めます。

多様な主体との連携

歴史文化学習の推進にあたっては、専門家や研究機関、公園内外で活動するNPOや市民団体、企業、地元自治体等との連携を図ります。

周辺の歴史資源との連携

周辺地域の歴史文化資源や展示学習施設等と連携した情報発信、利用促進に努めます。



利水 木曾三川の水資源は古くから濃尾平野の農業、産業発展に利用されてきた。



木津用水

舟運



舟運



舟運

水郷地帯の生活文化



輪中の分布と完成時期



輪中の農業

三派川地区 江戸期の治水事業、木材等の流通を通じた上流域との関係

中央水郷地区 三川分留の治水事業(宝暦治水、明治改修)、水郷地帯の生活文化

河口地区 七里の渡、桑名周辺の文化財群、干拓

宝暦治水



千本松原・油島締切堤



治水神社

明治改修



船頭平開門



背割堤・ケレップ水制

街道



七里の渡

干拓・新田開墾



松蔭新田再墾碑

3. 広域への貢献

①広域緑地ネットワーク形成等の基本方針

<広域エロジカルネットワークの保全と形成>

多くの生物の生息・生育空間や移動空間として機能するよう、河川管理者や沿川自治体との連携による木曾三川全体の自然環境の連続性の確保に努めます。

<中部都市圏大規模緑地ネットワークの形成>

鈴鹿・養老山脈や尾張丘陵とともに名古屋大都市圏を囲む、水と緑のネットワークを形成するとともに、周辺地域との水と緑の環境（支川や水路、周辺の農地・公園緑地、道路の緑地帯等）と木曾三川とが密なネットワークを形成するよう、沿川自治体等と連携して事業を進めます。

②広域性をいかした取り組みの基本方針

中部圏の骨格的なみどり軸である木曾三川の流れと流域の広がり进行い、河川の広大な空間を活用した多様なレクリエーションや広域交流の場を提供するとともに、周遊型の利用を促進し、地域とのつながりを強め、地域の活性化や防災性の向上へ寄与することを目指します。



<より多くの方が、より楽しむ>

○広域レクリエーション

水辺でのアウトドア・レクリエーション、スポーツ、花とみどり、健康福祉など、木曾三川の広大な河川空間や豊かな自然環境を活用したレクリエーションの場を提供することを通して、人々の広域的な交流を促進します。また、より多くの方々に楽しんでいただくため、利用プログラムやイベントの充実、広域的な情報発信等に努めます。

○観光・周遊ネットワーク

木曾三川公園を拠点とした周辺地域への広域的な周遊を誘導するため、沿川のまちづくりの取り組みや周辺の歴史文化資源と連携し、周遊コースの整備や情報発信等の利用促進に努めます。

○遊歩道・サイクリングロードネットワーク

長大な河川空間や豊かな自然を体感できるよう、河川管理者や沿川自治体との連携のもと、遊歩道やサイクリングロードの整備を進めます。

<より深め、より広げる>

○歴史文化交流

木曾三川上流地域や、治水事業において歴史的な関わりのあった薩摩藩やオランダ、東海道の宿場町など木曾三川の歴史文化とかかわりの深い地域との広域的な交流を促進します。

○地域活性化

広域交流の拠点としての活用を促進するとともに、地域への観光波及効果を高めるため、自治体や市民団体、生産者団体等と連携した取り組みを推進します。

○地域防災への協力

地域防災計画を踏まえ、地元自治体への必要な協力を行います。

○水防との連携

河川管理者の整備する水防拠点と連携し、平常時は憩いやレクリエーションの場として利用できる公園として整備を図ります。

○広域防災のための取り組み

大規模災害時には広域的な防災機能を発揮できるよう、関係機関との連携を図ります。

地区・拠点毎の整備運営方針

三派川地区

<自然環境>
河原などの多様な自然とのふれあいを通じた川や身近な自然への理解

<歴史文化>
近世の木曾川の利用・治水と沿川地域の発展の歴史の理解

<広域貢献>
花とみどりを通じた人々の交流とにぎわいの創出と、広大な河川空間を活かした健康づくり

1 フラワーパーク江南
テーマ 花とみどりの学習
暮らしの中で自然とふれあうためのヒントやきっかけを提供します。



2 かさだ広場・各務原アウトドアフィールド
テーマ 河川敷の広大な空間と豊かな自然
河川敷特有の自然環境を保全・再生しながら、自然を活かした健康増進の場を提供します。



3 河川環境楽園(木曾川水園)
テーマ 川の自然と文化の環境共生型テーマパーク
木曾川が育んだ自然や風土・文化を選びながら学ぶ場を提供します。



4 138タワーパーク
テーマ 三派川地区の総合拠点
三派川地区の自然、歴史文化、交流の拠点となります。



中央水郷地区

<自然環境>
水辺の体験を通じた川への理解

<歴史文化>
川と開いた川と調和してきた水郷地帯の人々の歴史と文化の理解

<広域貢献>
花とみどり、スポーツ、文化活動を通じた人々の交流とにぎわいの創出と、福祉の推進

5 ワイルドネイチャープラザ
テーマ 相父江砂丘の保全と活用
木曾三川特有の河岸砂丘を保全しながら、砂丘を活かした水辺のレクリエーションを提供します。



6 (仮称)桜堤サブセンター・木曾長良背割堤
テーマ 木曾長良背割堤周辺の自然と歴史
木曾三川の水辺と歴史遺産を実体験できる場を提供します。



7 長良川サービスセンター
テーマ 水上スポーツ
競技スポーツから障害者スポーツ・レクリエーションまで、長大な水面と河川敷を活かした高度なスポーツ・レクリエーションを提供します。



8 アクアワールド水郷パークセンター・(仮称)大江緑道
テーマ 水郷の自然と風景
水郷地帯の趣を残す大江川の景観や水辺の自然とふれあう場を提供するとともに、環境学習を推進します。



9 木曾三川公園センター
テーマ 中央水郷地区の総合拠点
中央水郷地区の自然、歴史文化、交流の拠点となります。



10 東海広場・(仮称)鶴戸川
テーマ 水辺の自然と広大な空間
水辺の自然に親しみ、広々とした空間の中で集い、憩う場を提供します。



河口地区

<自然環境>
雄大な景観や恵み豊かな川と海へのふれあいを通じた川や海への理解

<歴史文化>
川と海を結ぶ水運基地や干拓などにより形成された地域の歴史の理解

<広域貢献>
地域のまちづくりや市民・企業などとの連携

13 (仮称)七里の渡地区
テーマ 木曾三川を軸とした交流と繁栄の歴史
川やまちと一体となった歴史公園を目指します。



11 船頭平河川公園
テーマ 木曾三川の水生植物
花蓮を中心とした憩いの場を提供するとともに、水生植物により水の浄化に寄与します。



12 カルチャービレッジ
テーマ 多様な文化活動を通じた広域交流
文化活動やスポーツなど多様な活動によるにぎわいの創出を目指します。



河口地区その他の拠点
河口地区特有の自然環境や川と海との結節点としての歴史文化に触れる場としての整備を進めます。今後、社会情勢や地域状況の変化等を踏まえながら、引き続き、木曾川や揖斐川河口における拠点である(仮称)河口地区センター等の整備の考え方等の見直し、河口地区の新たな区域の設定や拠点の役割、配置等を検討していきます。



．より良い整備運営を進めるために

< 本基本計画の実現のために >

本基本計画の理念を展開し整備運営方針に即した事業を進めるため、国営木曾三川公園全体の整備運営に関して下記の取り組みを定期的、継続的に実施します。

- ・ ボランティア・NPO との協働
- ・ 沿川自治体、関連事業者等との連携
- ・ 利用者の声の反映
- ・ 専門家等によるアドバイス

各拠点等の計画、整備にあたっては別途下記の取り組みを実施します。

- ・ 計画・設計の各段階の策定体制
- ・ 市民の意見の反映

公園へのアクセス向上を図るため、駐車場の運用方法の改善等を図るとともに、まちづくりと一体となって地元自治体や関係機関と連携して公共交通の利用促進等をはじめ必要な対策に取り組みます。

< 質の高い整備運営のために >

施設の整備運営にあたっては、利用者の安全確保とユニバーサルデザインに努めます。

施設のデザインについては、公園全体の一体感に配慮しながら、自然環境や周辺の景観、地域の歴史文化的背景との調和を図ります。

園内で発生する剪定枝や刈草等のリサイクル、自然エネルギーの活用、環境に配慮した製品の導入に努め、環境負荷の軽減を図ります。

今後の整備運営にあたっては、既存施設の有効利用や維持管理の効率化等によりさらなるコスト縮減を図ります。

．今後の検討課題

自然環境の保全・再生や拠点間のネットワークに向けた具体的な検討を引き続き進めていきます。

既設の拠点については、今後の整備運営内容や区域設定等について再検証し、必要な見直しを引き続き進めていきます。

三派川地区については、周辺に歴史的資源が多数分布し、また水運を通じた上流域との関わりや利水の歴史など木曾三川の歴史文化に触れる場としての可能性を有しているため、新たな拠点を位置づけることの適否や立地の可能性を含めて今後の整備のあり方を引き続き検討していきます。